

絆が創り出す教育空間～社会教育の力～

曹 蓓蓓（筑波大学大学院／生涯学習・社会教育学）

鶏 排 英 雄

(Night Market Hero)

- ◆ 種別：映画
- ◆ 監督：葉天倫
- ◆ 脚本：葉天倫 葉丹青
- ◆ 出演：藍正龍 柯佳燕 等
- ◆ 台詞：中国共通語／閩南語
- ◆ 映画の上映情報（上映開始日）：
 - 2011年1月28日（中国台湾）
 - 2011年6月30日（中国香港）
 - 2011年7月12日（中国大陸）

あらすじ

美食や伝統的な祭りの出し物等が揃っている「八八八」という夜市で様々な人々が自分の屋台を通して夢と幸せを営んでいる。彼らは社会の低階級に生き、生活と戦っている人たちである。しかし、この夜市の土地は政府議員と結託している建築業者に買収された。自治会長である主人公の阿華（アファー）をはじめ、夜市の人たちは自分の人生や夢、幸福のため、夜市を守る戦いをした。この戦いを通じて彼らとその周りの人たちは自分の生きがいや身近の仲間への見方を変えた。そして、彼らの努力を通じて、夜市は政府によって観光夜市として存続することになったのである。

シーン再現

（祭りの後、憧れの女性記者に対し、阿華は夜市の人々について語る）

阿華：俺ら、888 夜市の連中には、それぞれに色んなドラマがある。でも、俺たちの夢は同じさ。お天道様がいい天気の下で商売させてくれて、落ち着いた生活を与えてくれることなんだよ。（筆者訳）

（夜市がヤクザに襲われて、落胆したみんなを阿華が励ます）

阿華：俺のばあちゃんは骨がすかすかだって、医者が言ってた。何十年も朝日を浴びてないからさ。俺たちは日の出を拝むこともできない、そりゃ～つらいさ。でもな、金はなくても、気概をなくしちゃだめだろ…。（筆者訳）

Chapter

1. 夜市の自治会長選挙
2. 二つの屋台の口喧嘩
3. 警察監察に対する団結
4. 建築業者からの指示を受けたヤクザの夜市襲い
5. 審議会前のデモ
6. 失ったものを再び手に入れた喜び

※ チャプタータイトルは、内容がわかるように筆者が補った

映画に登場する夜市の人々は、自らの生きがいを奪われてはじめて、これまでの人生を振り返り、自分たちの将来や夢を守るために権力と戦うという覚悟を決めた。この自己変容の過程を、社会教育的な観点から考察してみたい。

日本の社会教育学の視点から見ると、社会教育とは、教育基本法（第7条）や社会教育法（第2条）にあるように、教育法規上、「家庭教育及び勤労の場所その他社会において行われる教育」と定められている。この映画で言えば、「勤労の場所」は彼らが日常生活を送る「夜市」である。そして、そこで起きる出来事とそれに伴う喜怒哀楽は、彼らの生活のすべてである。

夜市の人々は、時には喧嘩をし、また助け合うことで、彼らなりのキズナを育んできた。彼らは、それぞれが背負っている様々な背景を問わず、互いのこれからの生き方を、そしてそのヒトを大切に暮らしている。どんなに不幸な過去があったとしても、夜市の屋台の持ち主たちは、辛くも楽しい自分の「人生」を経営していく。それは勿論、生きていくためである。

しかし、突然やってきた建築業者への土地買収が、彼らの夢を打ち砕くことになる。無力感と絶望の中、彼らは夜市の防衛力（法律、メディア、他の夜市の仲間等）を探し求めた。そして、夜市を守る戦いを通じて、自分たちの存在価値を認め合い、同じ信念を持つ人々とのネットワークを形成していった。同時に彼らは、自らの今後の人生についても、改めて考えはじめたのである。

夜市で創られたマチの力と、そして同じような辛い経験を持つ人々からの支援は、登場人物たちに大きな影響を及ぼした。彼らにとって、夜市は第二の人生の始まりであった。そこでの経験を通して、彼らは「当たり前の日常」という基本的な生活欲求を、自分たちの夢として再発見するのである。

自治的な社会と、そこにおける人々の絆には、自己の存在価値を再認識させ、人生を変化させるほどの力があることを、この映画は伝えている。それらは、社会教育の力として捉えることができるのではないだろうか。

また、この映画には、台湾社会における低階級の人々の生活が生き生きと描かれている。彼らの強さをしみじみと感じられる点も、魅力の一つである。

Information

- ・ 映画における夜市は空地型であり、夜になると各地からの屋台経営者が集まり、商売団地に形成する。この土地所有者は屋台経営者に土地の使用権を貸出し、一定の使用期間が決められた上で費用を支払わせる。
- ・ 映画情報： 時光網 <http://movie.mtime.com/140190/> (2012/02/04)
該映画 HP <http://nightmarkethero.pixnet.net/blog> (2012/02/04)